キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会　ニューズレター No.2

発行責任者 中原武志　編集 田村・坂手・有本・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内

TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

がん対策推進計画の深化を患者の手で

ひょうご がん患者連絡会副会長　黒田　裕子

がん対策基本法が成立してからの兵庫県の動きは大きく変革を示しました。そのことは、これまでのひょうご対がん戦略会議委員の構成メンバーにも現れています。これまで構成メンバーの中に患者及び遺族の加入は全くありませんでした。その為、患者・家族・遺族の生の声など反映されることなどありませんでした。

この度は、患者の声を反映させる為の代表として、「がん患者グループゆずりは」が選任されました。その任は重要と意識し、一人でも多くの患者・家族の声を反映させたく様々な団体の声をお聞きするように努めてまいりました。しかしながら、結果的に十分に反映出来ていなくて心苦しく思っているところに、中原武志氏を会長とした兵庫県がん患者連絡会が誕生したことをこころから嬉しく思っています。

この連絡会に加入されていない方、この様な会があることも知らない方に加入していただくために団体及び個人の皆様にもお声をかけながら、同じ痛みを持つ者同士が考え・つなぎ・変える・深めることが出来れば、これまでの政策をより我々の手で変革させることが出来るのではないかと考えています。

これからの社会は、言うだけ・依頼することだけでなく、自らが先頭に立って考え・行動を起こし次につなげていく覚悟とチームの強化が問われます。

現在は、拠点病院とその他の病院・診療所との役割分担が強調されて、患者・家族の声を聴くこともなく、治療が一通り終了すれば、その人の現状を考えることもなしに一方的に在宅へと次の手段が図られます。それでよい人もいれば、苦痛に苦しみながら在宅で過ごしておられる人も少なくないのが現状です。

最期の時を迎えるまでのプロセスの中で、安心、快適に過ごすことが出来るためには、自分達の手で改善していかなければなりません。更にこれらを追求する過程で、一人ひとりが意識を高め考えを深める機会となることを願いたいものです。

要求から参加へ、参加から参画にと、これからの社会を共創社会に出来るように、この会をそれぞれの手で成熟させたいと思います。そして、自分のいのちを見つめながら一日一日を大切に生ききることが出来ればと考える日々です。

これからもより一層この会の発展と強化ができるようにご支援下さい。

10 月度「がん予防啓発要員研修会」報告

「早期発見・早期治療の重要性について」を受講して

田村美生夫

10 月 16 日、がん患者連絡会の会員である“日本ホスピス・在宅ケア研究会”理事長で、だいとう循環器クリニック院長の大頭信義医師に標記演題の講演をして頂いた。

大頭先生の講演内容は、次の４項目：

① 日本のがん治療の特徴
② がんの疫学
③ 現在の治療成績
④ がん検診

と幅広く、がん予防啓発要員が“理解していなければならない事柄”について、多くの資料を示し分りやすく説明してくださった。

講演の中から、啓発要員の一人として特に大事だと感じたことを紹介します。

１、発がん因子を理解して、日頃からがん予防に留意すること

発がん因子は、食事、たばこ、感染の順に影響が大きく全体の 85%を占めている。その中の食事に関しては、危険因子と予防因子に分けて説明をしていただいた。

２、がん検診の有効性を正しく理解し、がんの早期発見に努めること

5 大がんと子宮頸がん検診についての有効性について各種のデータを示して説明があり、欧米のデータや検診のマイナス要因についても説明していただいた。

最近のマスコミ紙上には、マイナス要因のみを取り上げて検診の有効性に疑問を投げかける記事も見かけられるだけに、有難いお話であった。

また､がん検診を受けていない人の理由を分析したデータが示された｡それによると、受診していない約半数の人は､“たまたま受けていない”か“健康に自信があり必要性を感じない”人々である。がん検診受診啓発運動の必要性が納得できる話であった。

３、がんが見付かった時に、どこの病院でどのような治療を受けるかの選択について

これはわたし達患者の最大の関心事である。最近漸く公表されることが多くなったがん診療病院の５年生存率（治癒率）の見方について詳細な説明があった。

また、ステージ別標準治療法と臨床研究治療法の見方について､“胃がんの治療ガイドライン”を例に説明があった。最近、疾病別治療ガイドラインの出版も少しずつ増えてきており、その利用は患者にも有用になってきたと思う。

４、がん対策推進計画の、がん死亡率数値目標“20%低減”の実現性について

がん検診受診率が低迷しているとは言え、がん死亡率はがん検診の効果によって僅かながらも減少傾向にある。直近の実績から“20%低減目標”は決して高いハードルではなく、それ以上の達成を狙える目標値であると、これから啓発運動に取組もうとするわたし達を力づけてくださる説明があった。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します
（2008 年 9 月~11 月の活動分）

事務局長　田村美生夫

2008 年　9 月 18 日：第 1 回がん予防啓発要員研修会開催

「がん患者の目線でがんを考える」（講師：中原武志当会会長）を開催しました。

医療の立場からではなく、がん患者の立場から視点を変えて、細胞の働きや DNA、遺伝子の働きから、正常細胞とがん細胞の違いを説明していただきましいた。

そして、わたし達の身体のなかで眠ったままになっている遺伝子を ON にして免疫力をつけること、そのためには、「前向きに明るく生きること」「人のために働くこと」が大切だと強調されました。

2008 年 10 月 11 日：第 4 回がん患者大集会関西ブロック・プレイベント開催

京大医学部芝蘭会館で「考えよう、私の町のがん医療～関西地方の現状について」をテーマにがん患者大集会プレイベントを開ました。

静岡がんセンター総長 山口建医師の「がん対策の今後の動き」と題する基調講演に続いて近畿 6 府県の行政と患者会代表によるシンポジウムを行いました。兵庫県からは鷲見疾病対策課長と田村がん患者連絡会事務局長がパネラーとして参加し、夫々から“がん対策推進計画”への取組み状況について報告しました。6 府県代表が参加するシンポジウムは初めての試みでしたが、行政側、患者会側双方が主張すべきことは主張しあい有意義なプレイベントであり、11 月 30 日の全国がん患者大集会に繋げることができました。

2008 年 10 月 16 日：第 2 回がん予防啓発要員研修会開催

「早期発見・早期治療の重要性について」（講師：大頭信義医師）を開催しました。

概要は前ページに示しておりますが、“がん予防啓発要員が理解していなければならない基本的な事項”について幅広く、かつ多くのデータよって裏づけされた説明をして頂きました。がん予防啓発要員が自信を持って啓発活動で生かせる貴重な研修会でした。

なお、この度は兵庫県疾病対策課 新井企画調整係長にも参加をいただきました。それに引き換え、連絡会関係者の出席者が少なかったことは反省材料になります。

2008 年 11 月 21 日：第 13 回がん患者連絡会月例会開催

ひょうご がん患者連絡会は、11 月で設立一周年になります。

顧みますと、当初は毎月の月例会で、どの様な活動をしていくかについて議論を重ねながら相応しい方向を決めて取組んできました。7 月に入って、連絡会としての活動のコンセンサスも得られる様になり、今年度の方針を「組織体制の整備をすすめつつ“行動するがん患者団体を目指す”」と決めました。以来、その計画に沿って活動を続けております。

第 13 回月例会の主な決定事項は次の通りです。

① 来年度は、今年度の活動を踏まえて“目に見える成果”が得られる活動にすすむ必要があります。そこで来年度の活動方針と具体的な活動計画を策定する前段階の作業として、今月から“具体的に何をするか”について全員でのフリー討議を重ねていきます。

② リーフレットを 11 月末までに完成し、ニューズレターと併せて 12 月中目標で兵庫県下の行政および主ながん診療病院に配布します。その結果、連絡会の活動状況を県下の関係機関とがん患者に知ってもらい、相談にも応じられるようにしていきます。

ひょうご がん患者連絡会行事予定（'08 年 12～'09 年 2 月）

日　時	行事・会費	テ　ー　マ	講　師	場　所
12 月 18 日（木） 18：00～	月例会	（12 月度例会）	―――	兵庫県民会館 ３０４号室
12 月 18 日（木） 18：30～ 20：30	公開研修講座 会員会費 500 円 一般会費 800 円	「これからの がん患者会のあ り方について」	日本医療政策機構 がん政策情報Ｃ長 埴岡健一氏	同　上
1 月 15 日（木） 18：00～	月例会	（1 月度例会）	―――	兵庫県民会館 或はｸﾘｽﾀﾙﾀﾜｰ
2 月 19 日（木） 18：00~	月例会	（2 月度例会）	―――	兵庫県民会館 ３０４号室
2 月 19 日（木） 18：30～ 20：30	公開研修講座 会員会費 500 円 一般会費 800 円	「兵庫県の がん患者会及び 連絡会のあり方」	神戸新聞 論説委員 三上美喜男氏	同　上

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、５団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行されます。

ニューズレターの構成は、第 1 面が各団体代表による取組み報告、第 2 面が各団体持ち回り執筆の連絡会関係の活動報告、第 3、4 面が事務局の活動概況報告とお知らせ記事となっております。

創刊号は、会長と“日本がん楽会”が執筆し、第 2 号は副会長と“ゆずりは”が執筆しました。第 3 号以降は“あいうえお順”の持ち回り執筆となります。

編集後記の執筆は編集委員の持ち回りで、この号は「事務局」担当です。

編集後記

事務局　田村美生夫

連絡会ニューズレター第 2 号は、“ゆずりは”担当で執筆しました。

第 2 面の「連絡会関係の活動報告」欄には、10 月 16 日の“第 2 回がん予防啓発要員研修会”で、だいとう循環器クリニック院長の大頭信義先生に講演していただいた“早期発見・早期治療の重要性について”の研修報告記事を掲載しました。

このニューズレターを通じて、各団体所属会員の皆さん方の連絡会活動に対する理解が深まり、連絡会としての行動力が高まることを期待しています。

第 3 号は“あけぼの兵庫”さんの執筆となります。よろしくお願いします。

がん患者連絡会加入団体等の公開講座等予定（'08 年 12 月～'09 年 2 月）

日時・場所	主催(TEL)・会費	テーマ・講師	主な内容・講師
12 月 14 日（日） 13：30～16：30 男女共同参画ｾﾝﾀｰ	あけぼの兵庫 （078-220-5921） 無　　料	「緩和ケアについて」 関本ｸﾘﾆｯｸ院長 関本雅子医師	講演と質疑応答
12 月 14 日（日） 14：30～16：30 ラッセホール	ゆずりは （078-733-1821） 非Ｇ会員：800 円	「災害時における 要支援者のケアの あり方」	講師： 高齢者総合ｹｱｾﾝﾀｰ園長 小山　剛氏
1 月 17 日（土） 14：00～16：00 しらさぎビル３階	いちごの会（姫路） (079-254-4383) 無　　料	「うつ病について」 西松医院院長 西松央一医師	講演と落語を聴く会 落語：15：00～ 西松医師(寿亭茆町師)
２月７日（土）予定 13：30～16：30 兵庫県民会館	ゆずりは （078-733-1821） 非Ｇ会員：800 円	「終末期における 在宅時の災害対応」	講師： 長尾クリニック院長 長尾和宏医師
2 月 22 日（日） 13：30～16：30 場所　未定	あけぼの兵庫 （078-220-5921） 要申込　　無　料	「ターミナルケアと 家族の役割」	講師：淀川ｷﾘｽﾄ教病院 がん専門看護師 田村恵子氏
２月ごろの見込み	県・県がんセンター	拠点病院地域懇話会	検討中

がん患者･家族のための「CNJ がん情報ビデオライブラリー」をご紹介します。

がん患者連絡会会員で、ＮＰＯ法人キャンサーネットジャパン（略称 CNJ）の一員でもある武内務氏から、この度 CNJ 主催で毎月開かれている講演会の内容がインターネット上でビデオ録画として紹介されることになったとの案内を頂きました。

どなたでも無料でアクセスできます。パソコンをお持ちの方は、お茶を飲みながらでも、一度次のアドレスを開いて閲覧利用されてみることをお勧めします。

サイト名：CNJ がん情報ビデオライブラリー

URL：http://www.cancernet.jp/video/index.html

現在、パソコン上で公開されているＣＮＪゼミナーは以下の通りです。

半日間のゼミナーで、夫々５～１０名のその分野の専門家の方々の講演の録画です。関心のある演題を選んで聴講することができます。

・第 1 回目：10 月 26 日（日）開催、「もっと知って欲しい『緩和ケア』のこと」

・第 2 回目：11 月 2 日（日）開催、「もっと知って欲しい『乳がん』のこと」

・第 3 回目：11 月 16 日（日）開催、「もっと知って欲しい『すい臓がん』のこと」

これから公開される予定としては次のものがあります。

・12 月 14 日（日）「もっと知って欲しい『泌尿器のがん』のこと